列車の安全運行について

富士急行線のみならず全国の鉄道で事故、障害が多いのが踏切です。踏切、線路内立入り、線路横断による列車の緊急停止などの事故に繋がりかねない事象が発生しています。当社では列車の安全運行のために、さまざまな取り組みを実施しています。

■踏切保安設備の改良

障害物検知装置（小舟山踏切）

踏切の無謀進入防止を目的に、視認性向上効果のある全方位型警報ランプの設置や、踏切道のカラー舗装により安全性向上を図っています。

また、踏切内車両滞留による衝突事故を防ぐために、障害物検知装置や踏切支障報知装置の増設を進めています。通行量が僅少な踏切には、音声で通行者に安全確認を呼びかける、ガイド装置を設置いたしました。

■交通安全運動への参加

交通安全運動の様子

踏切事故を未然に防ぐ取り組みとして、地元警察や自治体、交通安全協会と協力した踏切事故防止キャンペーンを実施した他、大月警察による交通安全パレードに、2019年度も参加しました。緊急自動車での啓蒙放送や踏切事故等防止活動への参加、安全パトロールを実施しました。

■踏切事故防止啓蒙活動

駅構内での周知活動

沿線の小学生や幼稚園の皆様に、踏切の安全な通行方法や、電車利用時の駅での安全な乗降等についてわかりやすく説明する催しを、当社職員が小学校に出向いて実施しています。

また、駅構内にある踏切の事故防止を図るため、ご利用のお客様へ周知するために駅において周知活動を行っております。

●沿線の皆様へのお願い

踏切及び線路内は大変危険です。列車は急に停車することはできません。また、車内のお客様にも危険が伴います。踏切を横断するときは必ず一旦停止し安全確認した上で通行をお願いします。また、警報機が鳴ったら、必ず踏切手前で停止してください。踏切ではない箇所での線路内侵入は絶対にしないで下さい。安全運行のためのご協力をお願いいたします。

■ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の取り組みに対するご意見をお寄せください。

●富士急行㈱　事業部　鉄道管理センター
TEL 0555-22-7106　E-MAIL traffic@fujikyu.co.jp
（電話での受付：月～金 10：00～17：00 ※土休日除く）

当社の索道事業（ロープウェイ・リフト）に関する安全管理体制

当社は、山梨県の河口湖湖畔から天上山富士見台の460mを結ぶロープウェイ「富士山パノラマロープウェイ」と、静岡県の富士山南麓にあるスキー場「イエティ」のスキーリフト及び神奈川県相模原市の「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」内にある園内リフト、福島県二本松市の「あだたら高原スキー場」の合計４事業所において、索道事業を行っています。

富士山パノラマロープウェイ

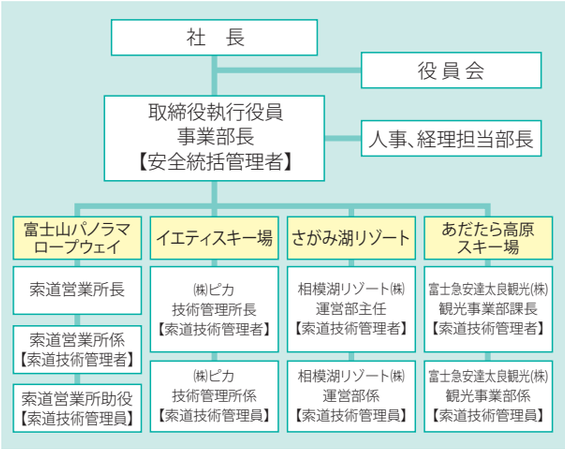
イエティスキー場

さがみ湖リゾート

あだたら高原スキー場

平成18年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理体制を構築しました。「安全統括管理者」が事業全体の安全を統括し、各事業所に「索道技術管理者」「索道技術管理員」を配置し、各責任者の責務を明確にした中で安全確保のための役割を担っています。

●索道事業安全管理体制図



●2020年度　安全目標

索道運転事故０件　索道インシデント０件

●2020年度　安全重点施策

※富士急グループ安全重点施策の他に「索道技術者の育成強化」を掲げております。

安全管理の方法

■安全会議の開催

索道安全統括管理者及び、全事業所の技術管理者が出席する索道安全会議を定期的に開催し、事故・故障の分析、再発防止対策、教育や施設整備の実施状況など意見交換を行い、情報の共有化を図っています。

■経営層の巡視

鉄道と同様、社長及び役員である安全統括管理者が 定期的に現場を巡視し、現業実態の把握及び職員との意見交換を実施しています。

安全に関わる取り組み

■工事

各事業所にて点検結果や使用状況に基づき、施設改良や更新工事を実施しております。2019年度は富士山パノラマロープウェイやあだたら高原スキー場において受電設備改修工事やイエティスキー場でのリフト搬器脱索防止装置の増設の他、各所で故障を未然に防ぐために部品の交換工事を実施しております。

■異常時訓練、教育

年間の教育計画に基づき、異常時における救助訓練を実施しております。

富士山パノラマロープウェイでの救助訓練

イエティ　スキー場での夜間救助訓練

ご報告

●2019年度は運転事故、インシデントはございませんでした。

●設備投資

2019年度	予算総額	１億９千2百万円
	安全投資額	５千2百万円
2020年度	予算総額	５千3百万円
	安全投資額	３千6百万円

※安全投資の主な内訳：
設備定期整備（各所）、リフト搬器安全バー更新（イエティ）ほか

【お客様へのお願い】
ロープウェイ・リフトご利用の際は安全上、係員の指示に従いご利用をお願いします。
みなさまのご協力をお願いいたします。

安全報告書
2020

富士山に一番近い鉄道
富士急行

ごあいさつ

お客様をはじめ沿線の皆様へ

日頃より富士急行をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。当社は「安全の確保」を企業行動規範に掲げ、何よりも安全を第一優先と考えております。

2019年度は電車への電気の安定供給のための変電所設備の更新を進めた他、JR 中央線からの直通特急列車の増発による鉄道線路の更なる安全を目指し、枕木交換や電柱のコンクリート柱化を進めました。また、近隣住民の方に当社の鉄道を安全に利用してもらうため、駅における啓蒙活動や小学校・幼稚園において鉄道安全教室、異常時における訓練や教育を定期的に実施しております。

この安全報告書は、鉄道事業法に基づき「輸送の安全確保するための現状」と「安全性向上のための取り組み」についてまとめたものです。ご高覧いただくとともに今後とも富士急行をご利用下さいますようお願い申し上げます。

富士急行株式会社
代表取締役社長　堀内　光一郎

安全方針

安全が全てに優先します。
安全が阻害されることのないよう絶えず注視し、120%の安全の確保に努めます。

安全行動規範

役員から社員まで一人ひとりが取るべき行動の原則として下記の通り定めるものとする。

1．一致協力して輸送の安全の確保に努めます。
2．輸送の安全に関する法令及び、これに関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
3．常に輸送の安全に関する状況を理解するように努めます。
4．職務の実施にあたり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のあるときは最も安全と思われる取り扱いをします。
5．事故又は事故のおそれがある事態、災害その他輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがある事態が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全で適切な処置をとります。
6．情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
7．常に問題意識をもち、必要な変革に果敢に挑戦します。

2020年度重点施策・安全目標

安全マネジメントに基づく、輸送の安全に対する体制の更なる整備・拡大を進め、事故を起こさない体制作り、また安全の確保に支障を及ぼす恐れがある事態が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全で適切な処置をとる体制づくりを強化します。

当社では鉄道・索道・バス・タクシーの事業間の垣根をこえてグループ職員の安全意識の醸成と事故を起こさない体制づくりを実施するため、富士急グループ安全重点施策を設定するとともに、各事業独自の安全重点施策も設定しております。

富士急グループ 安全重点施策

①安全対策設備及び装備更新
②危機管理体制及びテロ及び異常気象時対応のさらなる強化
③管理者を含めた職員の安全や技術教育体制充実による資質向上
④職員の健康管理、労務管理の徹底
⑤外国人観光客の安全対策、異常時対応の充実
⑥安心安全のため基本運転、動作の励行
⑦情報伝達やコミュニケーション確保により請負先、委託先と一体になった事故防止
⑧安全で快適な施設整備の推進
⑨デジタル化、IT 化による安全性向上への挑戦
⑩内部監査体制の強化

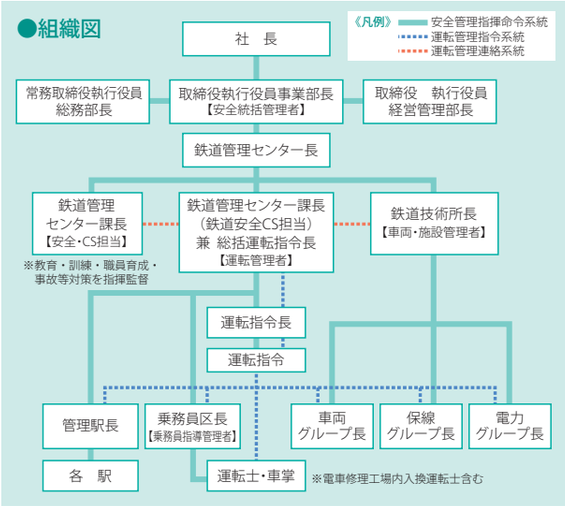
鉄道事業 安全重点施策

①踏切及び線路内立入対策を強化
②第４種踏切道廃止の推進
③小動物侵入対策の推進

安全目標：運転事故及びインシデント０件、有責輸送障害件数（30分以上の遅延、運休）についても０件とし、踏切直前横断及び踏切内立入事象を低減します。

当社の鉄道事業に関する安全管理体制

平成18年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理体制を構築し、「安全統括管理者」「運転管理者」「乗務員指導管理者」等、各責任者の責務を明確にした中で安全確保のための役割を担っています。また鉄道部門を管理する鉄道管理センターを設置し、より安全性向上のための体制を整備いたしました。



安全管理の方法

安全マネジメント年間計画に基づき、社長以下各種の体制により安全管理体制をチェックし、改善方法を検討、実行するPDCAサイクルを推進しています。

■安全会議の開催

毎月１回、安全統括管理者を中心に鉄道管理センター担当、現業長が出席する「安全会議」を開催し、安全に関する工事や教育の実施状況の確認、ヒヤリハットの発生状況と対策、並びに安全に関する提案について意見交換し、情報共有しています。また、駅業務を委託しているグループ会社とも安全会議を実施しており、結果についてはいずれも社長へ報告しています。

■経営層による巡視、把握及びマネジメントレビュー

社長及び役員である安全統括管理者は定期的に各職場を巡視し、現場の実態把握や職員との意見交換を実施し、安全体制の確認を行っています。

また、年１回、社長招集のマネジメントレビュー（会議）により安全に関する施策の進捗、達成状況を確認、改善策の指示を行っています。

■内部監査実施による安全体制の確認

安全体制を確認する専門知識研修を受講した内部監査員により、輸送や施設の管理が適正に実施されているか確認する内部監査を行っています。

安全や利便性向上に関わる取り組み

■老朽化設備の更新

⬆設備更新後の富士吉田変電所

富士急行線では、安全運行のために老朽化した設備を更新しております。昨年度は富士吉田変電所の変電設備更新や、レール、電柱を更新しました。更新にあたっては耐久性向上のために、材質を木からコンクリートに変更、レールについては従来よりも重いレールに更新するなど、施設の安全性向上に努めています。

■小動物侵入対策の推進

⬆侵入防止柵の設置

鹿などの小動物が線路内に侵入し、走行中列車が緊急停止する事象が発生しており、この対策として鹿が嫌がる超音波を発する「鹿ソニック」を鹿出現箇所に設置しています。また鹿の出現場所にあわせ、侵入防止柵の設置など引き続き鳥獣害対策を進めていきます。

輸送の安全を確保するために

■異常時訓練・体制

年間の教育・訓練計画に基づき、異常時対応訓練を実施しています。2019年度には警察及び消防と合同で、踏切事故における列車の脱線事故を想定した訓練を実施しました。

⬆脱線事故復旧訓練

また、大規模地震発生を想定した対応・情報伝達訓練を例年に引き続き実施しております。

乗務員や信号操作担当、保守担当者等職種別では、各職場において専門的な研修・訓練を行い、知識や技術の向上を図っています。また、AEDを用いた救急救命講習や、視覚や足に障害のある方に対する、介助講習等の研修を実施しております。

⬆大規模地震対応・伝達訓練

■職員の健康等管理

24時間体制で、安全関係業務に従事する職員については、年間２回の健康診断を行っています。日常においては、アルコール検知装置等により酒気帯びの有無を厳正に確認を行っています。前年度に続き、産業医出席による安全衛生委員会を毎月１回実施し、あわせて産業医と職場長による職場巡視や、健康相談等を行っています。

■大規模災害時用備蓄品の配備

大雪や地震など大規模災害等で鉄道が運休した際、お客様及び職員が利用する最低限の生活用品と食糧品を駅に配備し、鉄道の早期復旧とお客様の健康、安全のための対策を行っています。

日々の訓練・点検

全体的な訓練の他、各職場単位で専門的な訓練を行っています。

■乗務員や駅員の異常時訓練

車両・信号のトラブル等発生時に迅速な対応、並びに乗客の皆様の安全を守る為の訓練を、夜間等、様々な状況を想定し実施しています。また、人命救助のための、心肺蘇生やAEDを使用した対応訓練等も行っています。

■レールや架線状況の保守点検、交換

レール検査は目視の他に超音波による探傷検査を採用している他、線路整備車両（マルチプルタイタンパー）、レールの状態を測定する車両を夜間走行させデータ分析による保守を行っています。またこの車両を使用し、架線状態の測定を開始し、点検精度の向上によりさらなる安全性向上に取り組みました。

⬆軌道・電気総合検測車による計測（JR東日本提供）

⬆マルチプルタイタンパーによる保線作業の様子

■車両の保守

富士山駅構内の電車修理工場にて、定期的に係員による目視や打音検査及び測定検査を行っております。また、４年に１回、車両の重要部位を分解・精密検査しており、2019年度は6000系車両１編成（３両）について実施しました。

ご報告

●2019年度に発生した事故・障害について

◎運転事故　０件
◎インシデント　０件
◎輸送障害　０件

●設備投資額

2019年度　予算総額　６億９千万円
安全投資額　５億９千万円
※安全投資の内訳：変電所更新、レール重軌条化、合成枕木化、コンクリート柱化、踏切障害物検知装置、ほか

2020年度　予算総額　１億２千万円
安全投資額　７３百万円
※車両重要部検査、軌道整備 他